

林青山 略歴

- 弘化四年（1847） 十二月二十八日 群馬県利根郡桃野村（現みなかみ町）上津 原沢房吉の三男として生まれる。本名は周吉。
- 嘉永六年（1853） 六才の時、多野郡藤岡の法橋重信の門に入り絵の勉強を始める。
- 安政六年～文久三年（1859～1863） 十三才のとき、新治村の林豊山に入門、画法を修め又華道も習う。更に下津の内海蓬堂より書法を学ぶ。
この頃は晴山を名乗っていた。
十六才の春、上津如意寺の格天井に雲竜図を画き人々を驚かした。
- 明治元年（1868） 二十二才で下津小川島の林家の婿養子となり、林姓を名乗る。
その後、北は仙台から関東信越方面にまで周遊し、新潟県蒲原郡の南画家富取芳斎の門に長く寄遊した。太田の大光院には永く逗留し、絵をかきながら僧侶の苦行も積んだ。その間に画いた天井絵が、新治村但馬院、下牧玉泉寺、師竜谷寺、赤堀大林寺、桐生鳳仙寺など、県内外の43箇所の多きに達する。
- 明治十三年（1880） 青山(三十四才)のもとに月夜野の青柳琴僊(十四才)が入門、約5年間絵を指導する。
- 明治三十四年（1891） 東京の滝和亭に師事し、絵について特に丹青（絵具）の研究も行う。
- 明治二十六年（1893） 琴僊らとアメリカ、シカゴ博覧会に「山水の図」を出品し好評を博す。
- 明治二十七年～三十五年（1894～1902） 佐波郡赤堀村の貴族院議員本間千代吉の愛顧を受け本間宅に寄寓、後東京神田の本間別邸に転住する。
この頃上野美術協会、大阪南画共進会、東京勲業博覧会などに作品を出品、各種褒賞を得る。
- 明治三十三年（1900） そのうち日本美術協会美術展覧会に出品した「竹林平遠之図」が、宮内省御買上げとなる。更に4年後に出品した「花鳥之図」が、再び宮内省御買上げとなる。（その後青山の絵の上部に「賜天覧」の印章がしばしば押された。）
青山、本名は周吉だが宗昭とも云い、別号に晴山、晴月楼、桃花村舎などがある。
- 明治四十三年（1910） 六十四才で故郷の桃野村下津の小川島にもどる。桃野小学校落成に際し、「湖畔雁之図」の額を寄贈する。
- 大正四年（1915） 大正天皇御即位式の際、養老杯を賜る。
- 昭和九年（1934） 一月十一日 八十八才で没す。 戒名 俊嶽院青山林昭楽翁居士

その画法は北画に発したものを、よく南画の長所を取り入れて一新機軸を開き、数多くの作品を残した。